

水墨画の発展の中で日本文化の影響を受けることが多く、台湾の水墨画も日本文化の影響を受けています。日本の美術史や仏教美術に触れてから、日本の美術や文化に興味を持ち、それから日本への交換留学に行きたいと考え、さらにお茶ノ水女子大学は東京の中心に位置し、交通等の便利さの点からもお茶ノ水女子大学へ交換留学することに決めました。

その前の学期では、すべての交換留学の活動がコロナのために中止になってしまい、私と同時期に交換留学する予定のクラスメイトもコロナのために姉妹校から事前に中止の連絡を受けていました。そしてお茶ノ水女子大学からも、コロナにより状況が不明だと連絡が届き、日本に行ける望みはあまりないのだと諦めていました。ですから、日本政府が突然外国人留学生の入国を認めると発表したときは、かなり驚き、また興奮し、そして学校関係の手続きに取りかかりました。

コロナの影響で書類や情報がかなり煩雑になっておりましたが、お茶ノ水女子大学国際教育センターの方々が一人ひとりと密に連絡を取り合い、各国の情報や注意事項を教えてくれたおかげで、短期間で入国準備をすることができました。

国際教育センターでは、交換留学生の生活の対応だけでなく、交換留学生が深く日本文化を体験できるよう、定期的に日本文化教室を開催しています。私はその中で、華道教室や歌舞伎鑑賞教室を参加しました。

華道教室では小原流の先生が華道の歴史や特色について教えてくださり、また実際に自分で花を生けることが出来ました。華道教室以外、歌舞伎教室では、学校で歌舞伎の歴史や演技様式、芸術性をとてもわかりやすく説明していただき、その後、歌舞伎鑑賞教室の公演を観に行き、公演前に興味深い説明を聞き、歌舞伎文化の特殊性や魅力を理解することが出来ました。

学校で日本文化に触れていたこと以外では、来日してまだ学校が始まっていなかった期間に京都へ旅行しました。以前仏教に関する授業を受講した後仏教芸術に興味を持ち、京都に旅行に行くことを決めました。京都は多くの寺社仏閣があることで有名で、世界遺産や国宝が数多く存在します。三十三間堂、東大寺、離宮二條城が一番感動しました。

交換留学期間中多くの美術館や神社仏閣を訪れました。視覚芸術の創作には視覚的な体験によってこそ高められるものだと考えたくさんの作品を鑑賞し、留学期間はアトリエがないため自身の制作を行うことは出来ませんでした。たくさんのデッサンやドローイングを行いました。また日本は芸術が好きな国であるため、有名なアメリカやヨーロッパの美術館の作品が来日して展覧会を開催しています。交換留学中にはメトロポリタン美術館や大英博物館の特別展開催していました。お茶ノ

水女子大学は博物館や美術館のパートナーシップであるため、特別展や常設展は他の大学よりも優遇されたものが多く、お金をあまりかけずに作品を鑑賞することができて幸運でした。

最後に、大学と職員の方々に大変感謝しております。御茶ノ水大学は、私たち交換留学生がより良い学業と生活を送れるように支援してくれるだけでなく、日本文化を実際に体験する機会をたくさん与えてくれ、お茶ノ水女子大学の国際化のために、交換留学生による多文化交流や討論もたくさんありました。それ以外にも寮の管理人の方々は優しくそして熱心に毎日勤務時間され、問題があったときは根気強く問題解決に向き合ってくださいました。お茶ノ水女子大学は本当に交換留学生と交換学生に親切な大学だと思います。

